●2月は平和紛争予防／紛争解決月間です。

室蘭北ロータリークラブ会報

むろらんだけ 室蘭岳

Rotary

2018～2019年度　国際ロータリーテーマ
BE THE INSPIRATION
「インスピレーションになろう」
2018～2019年度 RI会長　バリー・ラシン

2019年2月5日(火)　第2266回　例会

第2510地区　日本 (DISTRICT 2510 JAPAN)　●会長：菅原　正明　●幹事：小野寺浩二　●編集：クラブ管理運営委員会

本日のプログラム

夜間例会「音楽の夕べ」

クラブ管理運営委員会

本日献立　中華（御弁当）

次回の予定プログラム

卓話「貝と室蘭」

創作工房せきね
代表　関根　勝治 様
クラブ管理運営委員会

次週献立予定　洋食ランチ（ソースカツライス、スープ）

ニコニコBOX

藤井徹也 (6/8･9のサザンライブチケット当たりました)
菅原正明 (玉井様本日はありがとうございました)
岸田理 (久しぶりの出席です。今年もよろしくお願いします)
船水尚行 (学生の奨学金への御礼)
椛澤哲也 (年末年初藤井さんご来店ありがとうございました)
塚田智憲 (結婚記念日につき)
廣瀬禎 (職業奉仕フォーラムが無事終了しましたので)

出席報告

会員数	47名	出席者数	27名
出席免除者数	2名	欠席者数	18名
出席義務者数	45名	出席率	60.00%

前回例会の報告

第2265回（1月29日）例会記録

本日のゲスト

国際ロータリー第 2510 地区
地区職業奉仕委員会　委員長
玉井　清治 様（函館亀田ＲＣ）

会長報告

1．例会終了後、記念撮影を行いますのでご協力をお願い致します。

幹事報告

1．2/2（土）は第47回ＩＭです。
登録されている会員の方は時間厳守の上お集まりください。

受付	14：00
開会セレモニー	15：00
講演	15：30
懇親会	17：30

バスをご利用の方は会報に時刻表を掲載しておりますのでご覧ください。

2．2/5（火）の理事会は18：00からとなっておりますのでお間違えのないようお願い致します。また例会は18：30からとなっております。

3．国際ロータリー日本事務局より
レートの変更お知らせが届いております。

2月のロータリーレート
現　在　＄1＝110円

＊ポリオプラス募金一人100円とワンコインニコニコBOXのご協力をお願い致します。

※1/29発行の会報に掲載ミスがございました。
1/22(火)第2264回例会の出席率は69.57%です。お詫びして訂正いたします。

●例会場　ホテルサンルート室蘭　●例会日　毎週火曜日　12：30　P.M.
●事務所　室蘭市中島町2丁目28-6（ホテルサンルート室蘭）
●電話　0143-45-6569　●ＦＡＸ　0143-50-6578
●URL http://murokita-rc.org/　●E-mail mur-n.rc@athena.ocn.ne.jp

前回例会のプログラム

夜間例会「クラブフォーラム」

国際ロータリー第2510地区
地区職業奉仕委員会　委員長
玉井　清治 様（函館亀田ＲＣ）
奉仕プロジェクト委員会
クラブ管理運営委員会

●プロフィール
1964年、今金町生まれ。
2000年、トラベルメイク株式会社を函館に設立
●クラブ歴
2000年　函館亀田ＲＣ入会（職業分類：旅行業）
2005-2006年度　クラブ幹事
2010-2011年度　クラブ会長
2014-2015年度　クラブ職業奉仕委員長（理事）
2015-2016年度　地区職業奉仕員
2016-2018年度　地区職業奉仕・基本理念委員会委員長
2018-2019年度　地区職業奉仕委員長

室蘭北ロータリークラブの皆様こんばんは。地区職業奉仕委員長の玉井でございます。

この度も職業奉仕フォーラムに講師としてお声をかけていただき、心より感謝申し上げます。

さて、「ロータリーの歴史と職業奉仕」と題してお話しさせていただきます。

ロータリーの中核的価値観のなかに「多様性」があります。職業人で構成されているロータリークラブは一業種一会員制の考えが原則にありますので、皆、考えが違うのはあたりまえのことで、その中で「人の振り見て我が振りなおす」ことが自己研鑽につながることでしょう。ただ一点すべてのロータリアンに共通することが「自分の事業所の永続的な繁栄を願う」であることは間違いありません。ロータリーの職業奉仕とは個人奉仕で「自らの職業をとおして社会に貢献する」ことです。

さて、「わかりづらい」といわれております職業奉仕ですが、わからないのは当然です。なぜなら職業とは利益を追求することであり、利己です。奉仕とは見返りを求めない行為であり、利他です。この相反するエネルギーの逆方向の単語を日本人として理解できるはずがないことはあたりまえのことですし、訳し方は人それぞれです。

我々職業人が自らの事業の継続的な発展を願うことは当然です。企業経営によって利益を得ることも当然であり、決して卑しいことではありません。しかし合法的でない方法や道徳的でない方法や、他人から批判を浴びるような方法で一時的に大きな利益をあげたとしても、それは長続きするものではありません。シェルドンは自らの事業を継続的に発展させるための学問的な企業経営の理念と実践方法を考え出して、それをロータリーの職業奉仕理念として提唱したのです。

職業奉仕とは科学的かつ合理的な企業経営方法のことであり、シェルドンの職業奉仕理念に則った企業経営をすれば、継続的に最高の利益が得られることを証明する実践理論でもあります。他の奉仕活動の受益者はロータリアン以外の人たちですが、職業奉仕の受益者はロータリアン自身なのです。そしてそれを端的示したモットーがHe profits most who serves bestなのです。

どういう環境の下にロータリーができたかということを、考えておく必要があります。

ロータリーが設立された当時のシカゴは、極端な資本主義が花開いた時期であり、過度の自由競争の下で、法律にさえ触れなければ、どんなことをしてでも、お金を儲けた者が勝者だと言われていた時代でもありました。大都会の中でお互いがライバル同士として、足を引っ張り合いながら死に物狂いで生きていこうと努力していった、凄まじい競争社会でした。そんな中で生活をしているビジネスマンですから、決して、心から打ち解けあった友達など出来るはずもありません。こういう状況の中

で、胸襟を開いて何でも相談し語り合える友人を得るため生まれたのがロータリー運動です。仲良くなったついでに、それを取引に利用して、物質的な相互扶助をすれば、お互いに事業が発展するだろうということで、ロータリアン同士の積極的な商取引、それも、原価による相互取引によってロータリアンが栄えていったわけです。従って、シカゴ・クラブで最初にできた定款には「会員の事業上の利益の増員」と、「親睦の充実」と書かれてあります。町の零細業者が集まったロータリーのメンバーが、1-2年のうちにみんな素晴らしい金持ちになっていきました。まさしくロータリーは、自分1人では掻けない背中を、車座になりながらお互いに掻き合う、いわゆるバック・スクランチングの世界というエゴイズムに満ちた出発をしたわけです。

1907年にポール・ハリスがシカゴ・クラブの会長になった時に、大きく方針を変えます。ロータリークラブは素晴らしい組織だから、会員増強を積極的に進めていく。さらに、この素晴らしい組織を全米に広げていく。そして、自分たちだけでいいことをするのではなくて、地域社会全体の奉仕活動を展開することを決めたわけです。

その最初の実践例としてやった活動が、公衆便所の設置運動です。これはシカゴ・クラブがお金を集めて作ったわけではなく、公衆便所を必要とする地域社会のニーズに従って、地域社会の団体を集めて、公衆便所設立委員会を作って、行政と折衝したわけです。

当時のシカゴのループ地区の人たちは、男の人だったら、バーに入って、ビールの1杯でも飲んでトイレを借り、女性なら、百貨店に行って口紅の1本でも買ってトイレを借りるのが普通でしたから、公衆便所設置に反対したのは、百貨店組合とバーのチェーン組織で、場所が決まって、起工式をするまでに2年間もかかり、1909年に、市役所と公立図書館の横に2つのトイレを作ることに成功したのです。ロータリークラブがやった最初の社会奉仕活動が、決して単なる寄付行為でなかったいうことは、非常に印象的なことです。

そういうことで対社会的な奉仕活動には成功したものの、ロータリアンに対する求心力となる理念を確定するのは難しい作業でした。当時のロータリアンの大分分は、親睦と事業の発展のためにロータリーに入ってきたわけで、そのための具体的手段である物質的相互扶助を廃止したら、ロータリアンになったメリットはなくなるわけです。ポール・ハリスは創始者としての才能はありましたが、残念ながら、理念の提唱には非常に疎かったので、ポスト物質的相互扶助となる新しい考え方の提唱者をスカウトする必要がありました。それがアーサー・フレデリック・シェルドンです。

本日はご清聴誠にありがとうございました。